

聖書の中には旧約聖書を中心に預言者と呼ばれる存在が数多く登場します。この預言者について本日は学んでみたいと思います。

私たちは予言者といいますと将来起こることを事前に告げる人のことを指すと考えます。しかし聖書の預言者はそれとは少し違います。それはこれから起こることを人々に語ったのではなく、主なる神から言葉を預かり、人々に告知らせよとの主なる神の使命に従って活動をしていたのです。そういうわけで聖書の中での預言者は、預かるという字を用いて予めという字は用いないことになっております。それはこのように、未来のことを告げるのではなく、主なる神から預かった言葉を伝える人という意味を明確にするためであります。

さて、預言者たちは主なる神からどんな言葉を預かってきて人々に伝えていたのでしょうか。それは大変に厳しいものでした。主なる神は預言者たちに人々の悪がはびこっていることを示し、それに御自身が大きい怒りを発せられていること、人々に悔い改めを促すこと、もし主なる神のもとに立ち返ろうとしないならば、審きと滅亡をもたらす、こういう内容でありました。人々がこのような言葉を聞いて素直に受け入れ、忠実に従おうとするならば預言者たちも苦労はなかったわけなのですが、人々は言うことを聞かなかったり、預言者たちをひどいめに合わせたりして、主なる神と人間の間の板挟みで苦労するように仕向けてしまったのでした。そして自分たちに都合の言いことを言ってくれる人を探しだし、耳ざわりのよい言葉を言ってくれる人にもみ耳を傾けようとしたのでした。この自分たちに都合のよいことを言ってくれる人達こそ、にせ預言者と言われる人達です。にせ預言者は決して苦難を担おうとはせず、人々の人気や悪を認めることしかしなかったのですが、悪い人間にとってはこのほうが都合よく、聞いていて安心できたのでした。耳の痛い、自分の存在を根本から悔い改めることを日々言われて、真剣に取り組むことよりも、日々楽しく暮らしていること、悪は人間である以上仕方がないと言ってくれる方が人々はよかったです。

こういうわけで預言者は大変に苦勞をし、傷つけられ、時には命を失う預言者も多くいました。聖書の中には主なる神の使命に自分の全てをかけて取り組んでいても、この世的には全く報われなかった預言者がたくさんいるのです。

さて、降臨節には私たちは心の準備をしてクリスマスを迎える時とすると共に、再びこの世に来られる主イエス、この世の終わりのその時をよく覚えて過ごすべきことを先週学びましたけれども、預言者たちを通して語られた主なる神の御心を私たちがよく受けとめるべきことを教えております。

本日の福音書に出てまいりましたヨハネは、この世で最後の預言者でした。主イエスがこの世に来られて、直接人間に神の国を宣べ伝えられたことによって、預言者は最早その使命を全うしたのでした。そして最後の預言者となったヨハネは、後に主イエスからこの世で最大に人物と言われた人です。この世的には主イエスの親戚に当たり、ザカリヤとエリサベツが年をとってから与えられた子供でした。主イエスよりちょうど半年早く誕生しました。ヨハネが現われた時、人々は期待をしました。この人こそ私たちを救ってくれる人ではないか、自分たちを苦しめている大国ローマ帝国に抵抗し、平和と自由をもたらしてくれるのではないかと期待したのです。このように人々は預言者の使命を理解しようとは最初からしておらず、自分たちに都合のよい預言者を作り上げていたのがわかります。それに対しヨハネは、自分は後に現われる救い主を迎えるために道を備えるために遣わされた者であること、そしてその準備とは人々に悔い改めを促すためであることを示したのでした。「わたしよりも優れた方が、後から来られる。わたしは、かがんでその方の履物のひもを解く値打ちもない」。この言葉はヨハネが主なる神から与えられた使命を全うしようとしているのをよく現しております。ヨハネは人々の悪を暴き、悔い改めを促していたのでした。ヨハネによって悔い改めを受け入れ、洗礼を授かった人もいましたが、やがてヨハネはヘロデの罪を暴いたため捕えられ、ついに首を切られて殺されてしまいます。ヨハネもまた最大の人と言われながらも、この世的には全く報われなかった一人でありました。

このように考えますと聖書に出てくる人達は随分と悪い人だったように感じますが実はそうではなく、自分の罪を素直にはなかなか認められない、主なる神の前に罪深い、小さい自分を認めることがなかなか出来ない私たちの存在を現しているのです。この降臨節に、私たちが主なる神の前の本当の自分を見つめて、主なる神の声を素直に聞く、それは耳の痛いことであるかも知れないが、それを受け入れている勇気を祈り、取り組んでいく時であることが教えられております。クリスマスまであと二週間ほどとなりました。私たち一人一人が、旧約時代から人間が主なる神によって取り組むよう求められてきた主なる神の前に自分を見つめることを、しっかりと行っていきたいものです。

最後に本日の特禱をもう一度ささげて終わりたいと思います。

慈しみ深い神よ、あなたは悔い改めを宣べ、救いの道を備えるため、預言者たちを遣わされました。その警告を心に留め、罪を捨てる恵みをわたしたちに与え、贖い主イエス・キリストの来臨を、喜びをもって迎えることができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。 アーメン